

特集

呼吸器感染症治療薬の 上手な使い方 —症例から紐解く達人の技—

本特集は、日頃より呼吸器感染症の治療に最新の情報を駆使して取り組んでいるわが国のオピニオンリーダーの先生方に、「呼吸器感染症治療薬の上手な使い方—症例から紐解く達人の技—」と題して執筆をお願いした。本特集の特徴として、教科書的な解説にとどまらないように、まず症例の提示を基本とし、その症例に対する執筆者の治療薬選択の考え方を述べた後に、執筆項目の疾患に対する治療薬の使い方を総論的に解説していることにある。

呼吸器感染症は、気道感染症、肺炎、胸膜炎など部位別の分類とウイルス、細菌、抗酸菌、真菌、寄生虫など原因菌別の分類があり、その組み合わせにより治療薬の使い方也多岐にわたる。日常診療で遭遇する頻度の高い疾患や菌種を対象にして、非専門医の先生方にもどのような治療薬をどのように使用すれば最適で適正な治療になるのかをわかりやすく解説している。また、専門的な対応が必要な疾患や菌種についてもその領域の患者を多く診療し精通している達人が匠の技を解説しているが、エビデンスが未だ少なく治療開始時期、治療終了時期、治療期間あるいは治療法自体が確立していない領域もあり、現時点での治療薬の使い方であることに留意していただきたい。

気道感染症では原因菌としてウイルスが多いが、実臨床では抗菌薬を使用することもあるため、どのような病態あるいは状態であれば抗菌薬療法の有用性があるのか、またインフルエンザウイルス感染症における多種類の治療薬のうち、病態や重症度に応じてどれを優先的に使用するのかなど、特に非専門医の先生方が日常診療で最も遭遇する頻度が高く、治療を実践するうえで知っておきたい領域を最初に取り上げた。次いで近年のわが国の超高齢社会が直面しておりその増加が顕著である、慢性気道感染症のうち主に慢性閉塞性肺疾患と肺炎について、状況に応じた治療方針と治療薬の選択を最近のエビデンスや考え方を中心に述べている。

菌種別では、抗酸菌症として未だ中蔓延国であるわが国の結核と、中年女性に高率に発症し、近年その罹患頻度が急上昇している非結核性抗酸菌症を取り上げた。結核に対する治療はある程度確立されているものの多剤耐性結核の問題や非結核性抗酸菌症では比較的報告が多い肺 *Mycobacterium avium* complex 症を中心に解説しているが、抗酸菌症における治療法はエビデンスが十分でなく課題が山積している。真菌症は呼吸器感染症のなかでも極めて難治性で治療薬も限られており、病態や薬剤の相互作用を考慮した治療薬の選択が必須である。アスペルギルス、クリプトコックスおよびニューモシスティスを取り上げたが、この領域でのオピニオンリーダーがわかりやすく解説をしている。さらに肺吸虫症も念頭に置くべき呼吸器感染症の一つであり、治療のコツが解説されている。

本特集を一読していただくことで、主要な呼吸器感染症の治療の理解が進めば幸いである。

大分大学 理事（研究・社会連携・国際担当）・副学長

大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座 教授

門田淳一